

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	172902587		
法人名	有限会社オフィスマリヤマ		
事業所名	グループホーム花 (Aユニット)		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1番11		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・広い畑で作業を交えながら作物の成長を楽しめる。 ・地域とのつながりを大切にしている。 ・季節感を大切にして、これを肌で感じていただけるように、行事や屋外作業を多く取り入れている。 ・比較的施設内の空間が広くゆったりしている。 ・掃除を入居者様と職員がおこない、きれいな施設を意識して生活している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902587&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p><一人ひとりを支える為の力や生活歴を活かした支援> トイレでの排泄や排泄パターンを把握した自立への取り組みや歯磨き、食事をどのようにして食べられるのか等日常生活に必要なことを普通にできる様に管理者・職員間で共有し、一人ひとりの力や生活歴を見極めながら柔軟に支援している。また、個別の課題やより具体的な支援方法等話し合い、実践し、その結果について本人、家族の満足度を測定し、そこでの意見を介護計画に反映している。</p> <p><地域の人々との交流や協力関係づくり> 地域住民に向けた認知症講座の開催や夏祭り・七夕祭りを主催して地元の人々との交流に努めたり、職員と利用者が地域のフラワーロードに参加して花を植えたり、草取り等への参加や町内会の花見や地域のお祭りに参加、地元女子高校の体験学習の受け入れや幼稚園児との交流等地元の人々や家族との交流・連携に努めている。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・年一回理念についての勉強会を開き、指針の明確化するとともに、理念を基にした各自の取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送りや理念を読み上げ全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。 ・運営推進会議の開催、家族会の開催、町内会の参加、地域ボランティアへの参加により、施設、家族、地域の方々との交流を通じ、互いの想い、考えを理解する機会を作り、理念の浸透に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所独自の理念及び毎月の重点目標を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。また、一人ひとりの職員の年度の目標設定を家族や来訪者等に分かりやすい掲示をし、職員の介護に携わる思いを伝える工夫をしている。 		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を開催し地域の方々との交流を重ね、互いの想い、考えを理解する機会を作っている。 ・町内会の役員や班長などを務め、互いの意見の交換の場を作っている。 ・地域のフラワーロード事業に参加し、春は花の苗のポット移植に毎年延25人くらいの入居者と役員が参加するとともに、それ以外にも月1、2回地域道路沿いの花の手入れや草取りを地域の方と一緒に参加している。 ・毎年夏祭りを行い、今年も地域の方々など200人近くの参加をいただきました。また町内の方々も10数人ボランティアとしてお手伝いして頂くなど、地域のお祭りとして定着している。 ・定期的な町内会の回覧板を、入居者と共に届けたり、散歩の際に会う方々に挨拶を行っている。また行事への招待も取り組んでいる。 ・地域のお祭りなどの行事に積極的に参加している。 ・近所のお店を利用し買い物などを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に向けた認知症講座の開催や夏祭り・七夕祭りを主催して地元の人々との交流に努めたり、職員と利用者が地域のフラワーロードに参加して花を植えたり、草取り等への参加や町内会の新年会・花見の参加、地元女子高校の体験学習の受け入れや幼稚園児との交流等地元の人々や家族との交流・連携に努めている。また、町内会の役員を引き受けたり、家族会との連携で地域の中で暮らし続けられるよう地元の人々との交流に取り組んでいる。 		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の皆さんを対象に、認知症の勉強会を開催している。 ・地域の高齢者との「お茶会」を企画して、互いの交流と理解の場を作っている。 			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の開催、地域ボランティア、地域行事への参加により、地域の方々との交流をすすめる、互いの想い、考えを理解する機会を作るように努めている。 ・運営推進会議では、行事についての説明や、日ごろの入居者様の現状や取り組み、安全対策等を説明するとともに、委員の方の意向により開催日を行事開催日に行い、会議に参加していただく入居者様だけではなく、入居者様全員の姿を見ていただくようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、年6回を目安に開催し、地域との交流や協力体制、具体的取り組み内容について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。 		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束はしていない。 ・研修への参加や勉強会を行っている。 ・夜間以外は鍵をかけることはなく、外に出たい方は職員と一緒に出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、研修会等を通じて管理者及び職員の共有が行われ、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加や勉強会を行っている。 ・身体のアザ、傷などの異変出現の際には、その原因について検討するとともに、スタッフ全員が完治までの状況把握を徹底することにより、スタッフ間の牽制を図っている。 			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・法律家への相談や研修への参加により学ぶ機会をもち、勉強会も開催している。 ・必要性がある入居者様について、施設長を中心に各ユニット役席が話し合うことにしている。 ・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、十分な説明を行い理解・納得を図るとともに、その後についても施設として互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点について都度説明をしている。 		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は日頃より入居者様の意見や要望を聞き、食事のメニューや行事等に反映している。 ・定期的に行なわれている運営推進会議に入居者様とご家族様にも参加して頂き、意見をいただいたり、行事等に外部の方の参加を呼び掛け外部の方に意見を頂いている。 ・日常生活でも、家族会を通じて不満苦情を言える環境に気を配っている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時にアンケートを行い苦情等の収集に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画について、独自に家族アンケートで満足度を測定し、そこでの意見を運営や介護計画に反映している。 ・また、家族会の開催時での意見交換や家族・来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の申し出先の掲示をしている。 	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝夕の申し送り時や月一回の全体会議等で職員の意見を聞き、業務に反映している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議や日々の業務を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。 	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、休憩時間には隔離された休憩室や個人の車の中など、各自がリフレッシュできる環境で過ごしている。 ・今年度からキャリアパス制度を導入し運用している。 ・職員は内外研修に積極的に参加している。 		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議、事例検討会、内部研修を月に一度づつ開くとともに、外部研修も参加している。 ・運営者が会議や申し送り等に参加し、職員の状況を把握し、レベル向上に取り組んでいる。 ・資格取得者には表彰制度を導入している。 		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・外部組織主催の研修会を通じ、他施設との交流を図っている。 ・お祭りなどの行事に他のグループホームと交流している。 ・グループホームの協会に属し、意見交換を通じて向上心をもった運営に取り組んでいる。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前にご本人の身体・生活状況を確認し、把握に努め、そこから絞れる問題点をあらかじめ挙げています。また、入居時に何が困っているのか、どんな生活がしたいか、見学や自宅訪問等からご本人様の要望をお聞きしている。また話しやすい雰囲気作りと言葉がけに注意している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前の見学や自宅訪問等から、サービス開始前にご家族からのお話を聞き、心配な事や要望をお聞きしている。また入居後も、話しやすい雰囲気を作り来訪時などに声かけに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居時にご本人の状況をよく観察し、介護スタッフと検討しながら、その時必要な支援を行える様に努めている。また、ご家族にも意見をお聞きしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・掃除、洗濯物たたみ、炊事、畑作業など日常生活を一緒に関わる事により、互いに歩み寄って良い関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族会主催の畑の苗植え行事を開催していただいている。 ・夏祭りなどの行事でも、お手伝いしていただき、行事などを通して、ホームと力を合わせて入居者様の支援に協力し合う関係を築いている。 ・月1回ご家族様に入居者様の個別近況報告と行事の様子をお便りにして送っている。また特記事項などあれば都度電話や来訪時に話し合いの場を作り、入居者様をともに支えていく環境を作っている。 ・ご家族様が入居者様に面会にいらした時は、できるだけ過ごしやすい環境を整えるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族や友人がいつでも面会に来られるように、明るい雰囲気でお迎えし、声をかけている。 ・年賀状や手紙、電話等で途切れないように支援に努めている。	知人等の訪問支援や夏祭り・七夕祭りの開催等で地元の人々との交流で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者様の性格や行動パターンを観察、理解し、座る席や座る向きに注意を払い、気難しい方でも自然に入っていけるように配慮している。 ・掃除や炊事、畑作業など日常生活を一緒に関わる事により、互いの違和感を緩和させる努力をしている。 ・入居者様が興味を持つことや一緒にできること(貼り絵や歌等)をおこない、職員も一緒に楽しく過ごしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったり退去した入居者様やそのご家族様の方々と交流があり、良い関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の普段の生活の様子を見て、好みや生活習慣などを優先出来る様に配慮している。 認知症が重くて、希望されている事がわからない時は、ご家族のお話を聞いたり、日常生活の中からも観察しながらご本人の立場になって考えている。 朝の申し送りや会議、介護記録等で職員間の情報交換をおこない、職員が一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、個別の課題やより具体的な支援方法等話し合い、実践し、その結果について本人、家族の満足度を測定し、そこでの意見を介護計画に反映している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの段階で、これまでの生活歴や習慣などをお聞きしている。お聞きした情報は、介護スタッフと共有している。 入居者様本人が好きでやっていた趣味や家事などの生活歴を見たり聞いたりしながら、職員一同入居者様が良い一日をおくれるように取り組んでいます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルサイン、水分摂取量、排便等の身体状況の把握をしている。 その日の生活状況や体調を朝の申し送りで話し合い、毎月行われる事例検討会等で方向性を決めて、スタッフ間で情報共有するように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の普段の状況を観察し、困った事や要望をお聞きしている。またご家族にも都度ご意見をお聞きしている。普段の生活の中で、介護スタッフと連携して、モニタリングを行い、ミーティングやカンファレンスなどで、その方にふさわしい生活について検討し、介護計画に反映させている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見やカンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の話し合いや連携をおこない、情報の共有はできている。 介護記録は、日頃の入居者様のご様子や出来事、ケアプランに反映出来る事を書くように努めているが、ケアプランに対して実施した事柄の内容はまだ少ないと感じる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れているなど、事業所独自のサービスを重視している。 多機能的なことは、今後入居者様やご家族様が希望された時に検討するが、現在要望はない。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店に買い物に行ったり、近くの神社や公園を利用して楽しみを拡げるよう努めている。 困った事があれば民生委員の方や色々な公共機関に気軽に相談している。 地域包括支援センターと何かあれば互いに相談している。 地域包括支援センター主催の研修に参加し交流を深めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様希望に合わせてかかりつけ医を選択している。又訪問診療も選択できる。 受診以外でも状況に合わせ電話等で連絡を取り合い、かかりつけ医と情報を共有しながら、入居者様が適切な医療を受けられるように努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、常勤する看護師と医師の連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の訪問看護師のラウンド時、普段の入居者様の生活の様子や身体状況について細かく伝え、往診がスムーズに受けられるように配慮している。 毎日バイタルサインやその他の体調をファックスや電話で伝えている。 必要に応じ都度担当看護師と相談し合い医師との橋渡しを含め入居者様の体調維持に努めている。 職員に看護知識を有した者(看護師)がいる。 		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 入院した場合は、グループホームでのご本人の状況などを入院先に伝えている。 入院中は病院関係者からも情報収集を行い、入院によるダメージ等を把握するとともに、早期退院が実現できるように努めている。退院時には、適切な引継ぎができるよう努めている。 		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に重度化や終末期についてご家族様の意向を聞き、状況に応じご家族様と話し合う機会を設けている。 重度化した場合は、末期のあり方について、ご家族とかがかりつけ医、訪問看護師、グループホームが話し合い、協力して支援に取り組んでいる。 	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応マニュアルがある。 入居者の急変や事故発生については、内部研修会にて、対応方法の訓練を行っている。 実際に緊急事態に対応した後に、組織として不備がなかったか都度検証している。 		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 災害を想定した避難訓練を春秋一度づつ行い、地域の方にも参加していただいている。 夜間想定の方針を夏場に何度も行い、全ての職員が夜間対応の訓練を受けている。 	スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回の日中を想定した火災避難訓練のほか、夜間想定の方針を何度も実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の羞恥心やプライバシーに配慮して、声のかけ方やトーンに注意して会話しているが、親しみを込めた言葉の中に不適切な言葉使用になることもある。 	身体拘束廃止や不適切なケア等の内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	親しみをこめた言葉遣いと不適切な言葉使用について、話し合いが行われているので、その成果について期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の思いを聞いて、尊重するように努めている。 認知度に合わせて職員からいくつかの提示をしてその中から選んでもらうようにしている。 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様は自分のペースで過ごされているように感じます。 食事とお風呂は決まった時間や曜日になっているが、入居者様のその時々体調や希望を取り入れ個別に対応することもしている。 		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> その人らしい服装が出来る様に服を選んでいただいたりしている。 自分で整容が難しい方には、髪のかし方なども希望を聞く配慮をしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様とスタッフが協力して、楽しい雰囲気で作ったり、片付けをしている。 メニューボードに当日の献立を記入して日々の話題に取り入れられている。 食材は栄養バランスやカロリーコントロールをする為に通常食材業者に依頼しているが、入居者様が、週に1,2度は折込広告などを見ながら自由にメニューを決め、買い物をして、料理をして職員と一緒に楽しんでいる。 	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に食事の準備や盛り付け、食事や後片付けをしている。また、栄養バランスや摂取カロリーは、管理栄養士が管理し、食事摂取量や水分摂取量を記録している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様の力に合わせて、食事や水分の必要量が取れるように、食事形態を考えたり、食量を考えたりしている。 特に水分が取りやすいように嗜好や形態に配慮している。 管理栄養士のもと、食材は栄養バランスやカロリーコントロールをする為に食材業者に依頼しているが、年に数回打ち合わせをしながら、入居者様の嗜好や体調管理に気を配っている。 		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 食後や就寝の口腔ケアは、ご本人が出来ない場合に、スタッフが確認し介助する事で、口腔内の清潔保持をしている。 		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> オムツは使わず、トイレでの排泄を基本として行っている。 ご本人の気持ちを尊重したり、排泄パターンを把握しながら、できるだけ自立した支援に心がけている。 	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 日々の中で個々の入居者様の排便状況、食事や水分摂取量などを掴み、体調管理に努めている。 その方の力に合わせて、家事や散歩など生活面でからだを動かしていただいている。 職員は便秘が及ぼす影響をよく理解しており、入居者様によっては薬の調整もしている。 		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入浴日は週3回あり、曜日や時間帯が決めているが、その中で希望する時間、お湯の温度、お友達と一緒に入るなど、出来る限りご本人の希望に沿った入浴に心がけている。 	週3回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、温度調整等本人の希望にそった支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 散歩など外に出る回数を増やしメリハリのある生活をしている。 ラジオ体操や家事等の生活作業で体を動かしていただき、その方にあった適度な運動をしていただくよう努めている。 夜間は、個人の活動によって臥床される時間にばらつきがあるので、その方のペースに合わせて支援している。 		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様の状況変化に合わせて、医師や薬局と連絡を密にするとともに、薬の処方や変更の要点を受診往診録等で伝達して、職員全員が把握できるようにしている。 重要な服薬作用については、申し送りノートにあげて、観察ポイントをスタッフに周知し、入居者様のからだの安全に努めている。 		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様が好む役割を持っていただき、家事やその他の生活の中で、持てる力を発揮していただけるよう支援を行っている。 楽しみごとについては、その方がどんなことが好きか理解し、支援を行っている。 日々の中で、入居者様が得意な料理を皆さんに作って感謝される場面をつくり、畑の管理を主導的に担っていただくなど、場面に合わせて各入居者様が共同生活の中で主役を感じていただけるよう支援している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 週に1,2回、食材や日用品を買いに出かけている。 ご本人の希望や散歩のついでに、近所へお店へ出かけている。 普段外出出来ないような場所へは、行事を企画して食事や大型店への買い物などに出かけている。 地域の行事やお祭りなどへ参加している。 ご家族にも協力していただき、お墓参り、外泊、温泉などに行っている。 個別に飲食や買い物に出かけることもある。 	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、フラワーロード等の地域行事参加や花植えなど戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、夏祭りや七夕祭りを主催して地元の人々との交流やお墓参りや外泊、温泉入浴等家族と過ごす時間を作る等支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 現在お金をお部屋で所持している方は一人しかいないが、他の入居者様は、日常の買い物ときや行事の時にはお財布を持っていただき、お金を使う機会を作るようにしている。 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の希望があれば、いつでも電話をかけられるようにしている。また声をかけにて、ご家族への電話を促すこともある。 年賀状や手紙のやり取りを支援している。 		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 不快な刺激がないように配慮している。 リビングは料理の音や匂いなどを感じることができるようになっている。 ホールの内外は広く、居室やリビングは日当たりの良い造りになっている。 	共用空間には、行事参加の写真の掲示や観葉植物が置かれていたり、一人になったり、談笑できるように椅子やソファが配置される等利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> リビングの共有空間には、食卓テーブルのある入居者様の座っているスペースと、テレビの近くのソファのスペースがあり使い分けている。またこれとは別に、事務室前には、一人になったり、気の合う方と会話出来る静かなスペースがあり、有意義に活用されている。 		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居前から親しんだ家具などを持ってきていただき、心地よく暮らせるように配慮している。 入居者様によっては、認知度が重くなるに従い入居者様自身の混乱を避けるためあえて物を少なくすることもしている。 	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 居室内は事故のないよう配慮を行っている。その中で出来る限りご自分の力を発揮出来る様に支援している。 		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	個別の記録と実践への反映	個別に行ったケアについての結果と気づきを、ケアプランに則り、介護記録に乗せる	・その日ケアを行ってみての、スタッフの気づきをより多く記録に乗せられるようにする。 ・ケアプランを番号や記号で表わす。	1年
2	36	親しみを込めた言葉使いの中に不適切な言葉使いになる。	入居者様に信頼と親しみを持っていただける接し方を追及していく	・日々の介護の中で職員同士が牽制しあい、より良い言葉使いを模索する。 ・申し送りや会議の中で検討する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902587		
法人名	有限会社オフィスモリヤマ		
事業所名	グループホーム花 (Bユニット)		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1番11		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・広い畑で作業を交えながら作物の成長を楽しめる。 ・地域とのつながりを大切にしている。 ・季節感を大切にして、これを肌で感じていただけるように、行事や屋外作業を多く取り入れている。 ・比較的施設内の空間が広くゆったりしている。 ・掃除を入居者様と職員がおこない、きれいな施設を意識して生活している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902587&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・年一回理念についての勉強会を開き、指針の明確化するとともに、理念を基にした各自の取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送りで理念を読み上げ全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。 ・運営推進会議の開催、家族会の開催、町内会の参加、地域ボランティアへの参加により、施設、家族、地域の方々との交流を通じ、互いの想い、考えを理解する機会を作り、理念の浸透に努めている。 		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を開催し地域の方々との交流を重ね、互いの想い、考えを理解する機会を作っている。 ・町内会の役員や班長などを務め、互いの意見の交換の場を作っている。 ・地域のフラワーロード事業に参加し、春は花の苗のポット移植に毎年延25人くらいの入居者と役員が参加するとともに、それ以外にも月1、2回地域道路沿いの花の手入れや草取りを地域の方と一緒に参加している。 ・毎年夏祭りを行い、今年も地域の方々など200人近くの参加をいただきました。また町内の方々も10数人ボランティアとしてお手伝いして頂くなど、地域のお祭りとして定着している。 ・定期的な町内会の回覧板を、入居者と共に届けたり、散歩の際に会う方々に挨拶を行っている。また行事への招待も取り組んでいる。 ・地域のお祭りなどの行事に積極的に参加している。 ・近所のお店を利用し買い物などを楽しんでいる。 		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の皆さんを対象に、認知症の勉強会を開催している。 ・地域の高齢者との「お茶会」を企画して、互いの交流と理解の場を作っている。 		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の開催、地域ボランティア、地域行事への参加により、地域の方々との交流をすすめる、互いの想い、考えを理解する機会を作るように努めている。 ・運営推進会議では、行事についての説明や、日ごろの入居者様の現状や取り組み、安全対策等を説明するとともに、委員の方の意向により開催日を行事開催日に行い、会議に参加していただく入居者様だけでなく、入居者様全員の姿を見ていただくようにしている。 		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持をしている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている 		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束はしていない。 ・研修への参加や勉強会を行っている。 ・夜間以外は鍵をかけることはなく、外に出たい方は職員と一緒に出ている。 		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加や勉強会を行っている。 ・身体のアザ、傷などの異変出現の際には、その原因について検討するとともに、スタッフ全員が完治までの状況把握を徹底することにより、スタッフ間の牽制を図っている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・法律家への相談や研修への参加により学ぶ機会をもち、勉強会も開催している。 ・必要性がある入居者様について、施設長を中心に各ユニット役席が話し合うことにしている。 ・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、十分な説明を行い理解・納得を図るとともに、その後についても施設として互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点について都度説明をしている。 		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は日頃より入居者様の意見や要望を聞き、食事のメニューや行事等に反映している。 ・定期的に行なわれている運営推進会議に入居者様とご家族様にも参加して頂き、意見をいただいたり、行事等に外部の方の参加を呼び掛け外部の方に意見を頂いている。 ・日常生活でも、家族会を通じて不満苦情を言える環境に気を配っている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時にアンケートを行い苦情等の収集をしている。 		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝夕の申し送り時や月一回の全体会議等で職員の意見を聞き、業務に反映している。 		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、休憩時間には隔離された休憩室や個人の車の中など、各自がリフレッシュできる環境で過ごしている。 ・今年度からキャリアパス制度を導入し運用している。 ・職員は内外研修に積極的に参加している。 		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議、事例検討会、内部研修を月に一度づつ開くとともに、外部研修も参加している。 ・運営者が会議や申し送り等に参加し、職員の状況を把握し、レベル向上に取り組んでいる。 ・資格取得者には表彰制度を導入している。 		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・外部組織主催の研修会を通じ、他施設との交流を図っている。 ・お祭りなどの行事に他のグループホームと交流している。 ・グループホームの協会に属し、意見交換を通じて向上心をもった運営に取り組んでいる。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご家族様から見た生活状況を十分に聞き取りを行い、ご本人が実際に困っていたり不安に感じたりしている事を、2Wほどの間の状況をケアしているスタッフから聴取しながら把握する様にしている。生活に慣れるまでの間は、毎日コミュニケーションを図りご本人の気持ちを受け止められる様にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様には、入居段階から十分にコミュニケーションを図る努力をしている。ご家族の要望に応えられる為に、要望を十分に把握できるよう可能な限り必要な情報を提供し、その事に対して感じるお気持ちや評価を頂ける様にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居の段階で、ご本人とご家族が必要としている支援とこちらが必要と考える点を照らし合わせて、暫定プランを立て確認させて頂いている。2W実施しながら、経過を報告しながら再度お考えを聴き本プランの立案をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の出来る力・生活の能力を把握できる様に、力を活かして生活が出来る様にしている。 ・入居者様自身が支え合うのではなく、介護してもらうのだといったお考えの方には、生きがいをを持った方向性に変えていただく努力をしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と積極的に関わりを持ち、日頃の報告をしながら信頼関係を築くことが出来る様にきっかけづくりをしている。その中で、ご家族のご協力が必要な点について、お話を持って行ける様にしている。 ・家族会主催の畑の苗植え行事を開催していただいている。 ・夏祭りなどの行事でも、お手伝いしていただき、行事などを通して、ホームと力を合わせて入居者様の支援に協力し合う関係を築いている。 ・月1回ご家族様に入居者様の個別近況報告と行事の様子をお便りにして送っている。また特記事項などあれば都度電話や来訪時に話し合いの場を作り、入居者様をともに支えていく環境を作っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・行きたい場所の要望があれば、ご家族様と協力して行ける様にしている。 ・ご家族や友人がいつでも面会に来られるように、明るい雰囲気でお迎えし、声をかけている。 ・年賀状や手紙、電話等で途切れないように支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者様の性格や行動パターンを観察、理解し、座る席や座る向きに注意を払い、気難しい方でも自然に入っていけるように配慮している。 ・掃除や炊事、畑作業など日常生活を一緒に関わる事により、互いの違和感を緩和させる努力をしている。 ・入居者様が興味を持つことや一緒にできること(お話や歌等)をおこない、職員も一緒に楽しく過ごしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・亡くなったり退去した入居者様やご家族様の皆さんと交流があり、良い関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者様の思いや暮らし方、希望や意向を関わりの中で発見に努め、その発見をどう生かし叶えられるか試行錯誤して取り組んでいる。 ・認知症を抱え伝えたくても上手く伝えられない現状があり、またご本人にとっては希望・意向であることが、まわりにとっては迷惑となることであったりとする。その個別への取り組みをしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・全スタッフが、担当者を持ちそれぞれで把握に努めている。また入居時には、馴染みの生活を中心に情報を得ここの生活に活かすことが出来る様に、得た情報は担当以外のスタッフとも情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日バイタルサイン、水分摂取量、排便等の身体状況の把握をしている。 ・その日の生活状況や体調を朝の申し送り話し合い、毎月行われる事例検討会等で方向性を決めて、スタッフ間で情報共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月の会議において、課題や気づきについて話し合いの場を設けている。またその時の為に、ご本人とご家族と担当の意見や思いなどをお聞きして、介護計画を作成するようにしている。 ・ご家族とご本人との会話の中での意見、要望も情報を得ることが出来る様にモニタリング用紙を準備して実施している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員間の話し合いや連携をおこない、介護記録に記載して情報の共有をしている。 ・記録方法も知りたい情報が簡潔に記入される様に改善策を日々実践し、全スタッフで取り組みをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れているなど、事業所独自のサービスを重視している。 ・多機能的なことは、今後入居者様やご家族様が希望された時に検討するが、現在要望はない。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の商店に買い物に行ったり、近くの神社や公園を利用して楽しみを広げるよう努めている。 ・困った事があれば民生委員の方や色々な公共機関に気軽に相談している。 ・地域包括支援センターと何かあれば互いに相談している。 ・地域包括支援センター主催の研修に参加し交流を深めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及びご家族様希望に合わせてかかりつけ医を選択している。又訪問診療も選択できる。 ・受診以外でも状況に合わせ電話等で連絡を取り合い、かかりつけ医と情報を共有しながら、入居者様が適切な医療が受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り身体面・精神面も含めて生活状況が見える様な情報の提供に努力している。普段の元気な状態を知って頂くことで、些細な様子の変化を発見して対応に繋がる様にしている。 週1回の訪問看護師のラウンド時、普段の入居者様の生活の様子や身体状況について細かく伝え、往診がスムーズに受けられるように配慮している。 毎日バイタルサインやその他の体調をファックスや電話で伝えている。 必要に応じ都度担当看護師と相談し合い医師との橋渡しを含め入居者様の体調維持に努めている。 職員に看護知識を有した者がいる。 		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 入院した際には、可能な限りの生活状況やご本人にとって欠かせない情報を提供できる様にしている。 入院中は病院関係者からも情報収集を行い、入院によるダメージ等を把握するとともに、早期退院が実現できるように努めている。退院時には、適切な引継ぎができるようにしている。 退院(専門医)の際には、不安要因を伝えいつでも相談にのって頂ける様に関係づくりをしている。 		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に重度化や終末期についてご家族様の意向を聞き、話し合っている。 重度化するような可能性が生まれた時点から、ご家族へ今後の予測される生活についてのお話や、医師の意向などをこまめにお話を伝える環境づくりをしている。状況によっては、医師からのお話を聞いて頂き、今後への心構えや意向を話合える機会を作るなどの対応をしている。 		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応マニュアルがある。 事例検討会や勉強会などに取り入れて、急変の恐れのある方や転倒のリスク、事故のリスクが高い状況が見えた際には、あらゆる事を想定した上で、全スタッフがそれに対応できる様に指導している。 実際に緊急事態に対応した後に、組織として不備がなかったか都度検証している。 		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 災害を想定した避難訓練を春秋一度づつ行い、地域の方にも参加していただいている。 夜間想定火災避難訓練を夏場に何度も行い、全ての職員が夜間対応の訓練を受けている。 		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 人格の尊重、プライバシーについて他スタッフ共に学ぶ努力をしているところである。「人を大切にすると目標をかげ、その中で言葉掛け、対応の方法を試みそれを評価しながら取り組んでいる。 		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 「手を出さず、口を出さず、目を離さず」を心にとめ言葉にならない思いや希望を知らずのうちに抑えてしまわない様に、見守り支援出来る様にしている。 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 食事とお風呂は決まった時間や曜日になっているが、入居者様のその時々体調や希望を取り入れ個別に対応することもしている。 入居者様本位を取り組みの基本としている。一人一人のペースを活かすと、他者のペースが活かせないなどの現状が起こり、まだまだ取り組みに努力が必要であると考えている。 		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 外出時や、行事などのときには化粧をするなどの機会を持って喜んで頂いている。 月1回の訪問美容室を依頼して、ヘアと顔のお化粧を楽しんで頂いている。 毎朝支援の必要な方には、一緒に服を選ぶなどの工夫をしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・時々の外食や、ご家族のご協力で手打ちそば、野外での焼肉や流しソーメンなどを企画して楽しんで頂いている。 ・メニューボードに当日の献立を記入して日々の話題に取り入れている。 ・食材は栄養バランスやカロリーコントロールをする為に通常食材業者に依頼しているが、入居者様が、週に1、2度は折込広告などを見ながら自由にメニューを決め、買い物をして、料理をして職員と一緒に楽しんでいる。 		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食事水分量、食事をチェックして管理している。 ・体調に合わせて、水分制限を全スタッフで把握して支援している。 ・いつもと違った状況があった際には、報告と相談を徹底して取り組んでいる。 ・栄養状態が低下傾向にある際には、主治医と相談して「野菜ジュースの取り入れや、高カロリー食の取り入れを検討しながら支援している。 ・管理栄養士のもと、食材は栄養バランスやカロリーコントロールをする為に食材業者に依頼しているが、年に数回打ち合わせしながら、入居者様の嗜好や体調管理に気を配っている。 		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は、毎食後の口腔ケアの実施は習慣として行える様に支援している。 ・日々の生活の中で、実施されているかどうかにおいてや、自力で出来なくなっていることの気づきなどの情報収集をし、清潔保持を徹底している。 		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握して支援している。 ・オムツを付けた方にも、トイレでの気持ち良い排泄が持続できる様に、対応方法を常に検討している。 ・また個々にあったパットを選び、自分で出来る様に検討して支援している。 		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の中で個々の入居者様の排便状況、食事や水分摂取量などを掴み、体調管理をしている。 ・その方の力に合わせて、家事や散歩など生活面でからだを動かしていただいている。 ・職員は便秘が及ぼす影響をよく理解しており、入居者様によっては薬の調整もしている。 ・便秘時には、必ず主治医に相談して毎日の排便が可能となる様に支援している。 		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴日は週3回あり、曜日や時間帯が決められているが、その中で希望する時間、お湯の温度、お友達と一緒に入るなど、出来る限りご本人の希望に沿った入浴に心がけている。 		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床、就寝、お昼寝など可能な限りご本人のペースに合わせて支援出来る様に努力をしている。 ・ラジオ体操や家事等の生活作業で体を動かしていただき、その方にあった適度な運動をしていただくよう努めている。 ・夜間は、個人の活動によって臥床される時間にばらつきがあるので、その方のペースに合わせて支援している。 		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状況変化に合わせて、医師や薬局と連絡を密にするとともに、薬の処方や変更の要点を受診記録等で伝達して、職員全員が把握できるようにしている。 ・重要な服薬については、申し送りノートにあげて、観察ポイントをスタッフに周知し、入居者様のからだの安全に努めている。 		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様が好む役割を持っていただき、家事やその他の生活の中で、持てる力を発揮していただけるよう支援を行っている。 ・楽しみごとについては、その方がどんなことが好きか理解し、支援を行っている。 ・日々の中で、入居者様が得意な料理を皆さんに作って感謝される場面をつくり、畑の管理を主導的に担っていただくなど、場面に合わせ各入居者様が共同生活の中で主役を感じていただけるよう支援している。 ・日頃の支援の中でも、新たな発見がないかを追求している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の希望や散歩のついでに、近所へお店へ出かけている。 ・普段外出出来ないような場所へは、行事を企画して食事や大型店への買い物などに出かけている。 ・地域の行事やお祭りなどへ参加している。 ・体調により外出が困難な方であっても、ご本人にあった外出を考えご家族と共に叶えられる様にしている。 		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の希望があった際には、可能な限りそれが出来る様にご家族とも話し合い取り組みをしている。 ・外出の際には、買い物や自分の力で出来る様に支援している。 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の方に限られてきているが、ご本人に合った方法を検討して、支援している。 		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・不快な刺激がないように配慮している。 ・リビングは料理の音や匂いなどを感じるができるつくりになっている。 ・ホームの内外は広く、居室やリビングは日当たりの良い造りになっている。 ・食事の間には、キッチン内の作業は控えています。 ・季節感のある空間づくりに工夫しています。(季節毎のディスプレイや、テーブルに花の一輪ざしを飾るなど) 		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの共有空間には、食卓テーブルのある入居者様の座っているスペースと、テレビの近くのソファのスペースがあり使い分けている。またこれとは別に、事務室前には、一人になったり、気の合う方と会話出来る静かな広いスペースがあり、有意義に活用されている。 		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居生活が始まる段階で、馴染みの物を少しでも多くある環境になる様に働きかけをしています。また、布団の好みや休む方向などを含めて情報を収集します。 		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る力、と出来ないことを理解して出来る力を奪う支援にならぬようにしています。また、出来る可能性が発見出来る様に気づきを磨く努力をしています。 		

目標達成計画

作成日: 平成 23 年 3 月 30 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	1)全スタッフが介護計画を把握できていない 2)実施したことを、記録に載せることができていない 3)よって、モニタリングも同様に不十分である	1)全スタッフが介護計画を把握すること。 2)実施し結果を記録できること。 3)モニタリングが出来、新たな介護計画に繋げること	1)記録方法をポイントで提示 2)実施したこと、その結果を記録を開始(まず2名から) 3)毎月振り返りをしながら、改善して行く	1年
2	27	・個別の記録と実践への反映	・個別に行ったケアについての結果と気づきを、ケアプランに則り、介護記録に乗せる	・その日ケアを行ってみての、スタッフの気づきをより多く記録に乗せられるようにする。 ・ケアプランを番号や記号で表わす。	1年
3	38	・入居者様本位を取り組みの基本としている。一人一人のペースを活かすと、他者のペースを活かせないなどの現状が起こり、まだまだ取り組みに努力が必要であると考えている。	・今以上の意識を持ち、入居者様の毎日の心身の状況を掴む	・その日の入居者様の気持ちに合わせ、出来るだけ多くの作業を共にする。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。